

生育状況は、平年並みに推移し、品種により結実状況が判明してきました。今後は、予備摘果・仕上げ摘果等の管理作業を実施しましょう。尚、ふくろみ病被害果は、園外へ除去して下さい。また、シンクイムシ類の発生が確認されてる園地があります。今回の防除は、初期の発生密度を抑えるため、前回、NO4の薬剤散布から開かないように努めましょう。

## 1. 薬剤散布 隣接園（特に収穫期の作物）に飛散しないように注意して下さい

### 《プラム》（前回から約10日後）

・散布時期：	5月下旬～6月上旬（5月28日～6月1日頃）			<table border="1"> <tr> <td>・散布日</td> <td>5月</td> <td>日</td> </tr> <tr> <td>・散布量</td> <td colspan="2">0</td> </tr> </table>	・散布日	5月	日	・散布量	0	
・散布日	5月	日								
・散布量	0									
・散布薬剤：	水	100ℓ当り								
	展着剤	10ml								
	劇 バイスロイドEW	33ml	（14日前、2回）							
	マイコシールド	50g	（21日前、3回）							
・対象病虫害：	アブラムシ類、（シンクイムシ類）、黒斑病（かいよう病）									
・散布量：	10a当り SS 500ℓ 動噴 600ℓ									
・注意事項	①摘果果実は、腐敗病、シンクイムシ類の伝染源になりやすいため、園外へ除去する。 ②カイガラムシ類の発生がある場合は、コルト顆粒水和剤2000倍（前日、3回）を加用する。 ③葉・果実とも軟弱であり、散布の時間帯・薬液量等十分に注意する。									

### 次回の散布（前回から約10日後）

・散布時期：	6月上中旬（6月8日～6月12日頃）			<table border="1"> <tr> <td>・散布日</td> <td>月</td> <td>日</td> </tr> <tr> <td>・散布量</td> <td colspan="2">0</td> </tr> </table>	・散布日	月	日	・散布量	0	
・散布日	月	日								
・散布量	0									
・散布薬剤：	水	100ℓ当り								
	展着剤	10ml								
	劇 ダーズバンDF	33g	（14日前、2回）							
	劇 バリアード顆粒水和剤	25g	（前日、2回）							
	マイコシールド	50g	（21日前、3回）							
・対象病虫害：	シンクイムシ類、ウメシロカイガラムシ、モモノゴマダラメイガ、黒斑病（かいよう病）									
・散布量：	10a当り SS 500ℓ 動噴 600ℓ									
・注意事項	①大石早生は、マイコシールド2000倍を除いてもよい。（収穫前使用規制等） ②スモモヒメシンクイムシ類の卵が果実に散見された場合、劇スプラサイド水和剤1500倍（14日前、2回）を特別散布する。 ③授粉樹が病虫害の発生源にならないよう、授粉樹への防除も徹底する。									
	<table border="1"> <tr> <td>「大石早生」収穫開始予想 6月30日頃？～</td> </tr> </table>			「大石早生」収穫開始予想 6月30日頃？～						
「大石早生」収穫開始予想 6月30日頃？～										

### 《プルーン》（前回から約14日後）

・散布時期：	6月上旬（6月1日～6月5日頃）			<table border="1"> <tr> <td>・散布日</td> <td>月</td> <td>日</td> </tr> <tr> <td>・散布量</td> <td colspan="2">0</td> </tr> </table>	・散布日	月	日	・散布量	0	
・散布日	月	日								
・散布量	0									
・散布薬剤：	水	100ℓ当り								
	展着剤	10ml								
	バルコートフロアブル	50ml	（3日前、3回）							
	アーデントフロアブル	50ml	（前日、3回）							
・対象病虫害：	灰星病、ハダニ類、（シンクイムシ類）、（ハマキムシ類）									
・散布量：	10a当り SS 500ℓ 動噴 600ℓ									
・注意事項	（アブラムシ類の発生状況からアーデントフロアブルとモスピラン顆粒水溶剤を前後しています。）									
	①摘果果実は、腐敗病の伝染源になりやすいので土中深く埋めるか、園外へ除去する。									

## 3. 今後の管理（仕上げ摘果→見直し摘果、支柱、枝吊りの実施）

・園内が暗くなりやすいので新梢を整理しましょう。・ふくろみ病の発生果実は翌年への越冬菌増加に繋がります。できるだけ園地外へ除去しましょう。 ※スモモヒメシンクイの発生は、昨年比10日遅い発生傾向です。

\*スモモヒメシンクイ発生予察状況5月8日 ・倭1頭・一本木3頭・草間2頭